

研究テーマ：子育て支援の取組について



①陽当たりのよい遊び場。床暖房、授乳室等完備。
②講演会や会議、健康教室等を実施する多目的のホール・会議室を見学。
③富岡市子育て健康プラザ前にて。

「だれもが健やかに安心して暮らし続けられるまち」の実現に向けて
富岡市の旧保健センターには次の課題があった。①土地、建物が群馬県の所有で、運営が不安定かつ使いづらい②昭和44年建築の施設・設備が老朽化の進行により不具合が多発③耐震化が未実施。

また、児童館等が入っていた施設「あい愛プラザ」では、①広さや間取りが十分でなく、使い勝手が悪い②昭和52年建築の施設・設備が老朽化の進行により不具合が多発などの課題があった。
さらに、市役所、保健センター、あい愛プラザなど、子育て支援サービスを提供場所が分散し、利用者に不便が生じていたという。
そこで市は、令和2年5月に「富岡市子育て健康プラザ整備基本構想」を策定し、保健と子育て支援部門を集約した複合施設の建設を決定。市の直営工事として、事業費12億3000万円で、令和5年3月に子育て健康プラザを竣工させた。
現在、富岡市では、「だれもが健やかに安心して暮らし続けられるまち」の実現に向け、利用しやすく、安心安全で、市民福祉の向上につながる施設となるよう努めている。

「玉村町こども家庭センター」も一体的な施設の整備が必要

視察の点 富岡市が力を入れた子育て機能と子育て機能を備えた複合施設である。赤ちゃんから大人まで安心して利用できる子育て・健康・交流の場が設けられたことにより、市民にとって安心して子供を生み育てられる拠点ができた。人口減少が続く中で、その歯止めをかける市の事業であるとして受け止められた。
当委員会としても、視察先会場での質問と市からの回答や施設を見て、玉村町にもこうした施設の必要性を強く印象づけられた。今後の玉村町のハード面を含めた子育て支援施策の一層の充実を求める。

民生文教
常任委員会

赤ちやんから大人まで
子育て・健康・交流の場「富岡市子育て健康プラザ」を視察

委員長 羽鳥光博 副委員長 堀越真由子 委員 月田均・備前島久仁子・浅見武志

研究テーマ：上下水道施設管理・更新一体事業
官民連携手法導入可能性調査について



①鉄細菌利用法による水処理実験。
②建て替えが決定した高架水槽。
③水道庁舎前にて。



玉村町浄水場の現状と課題

玉村町水道事業の基幹浄水場である玉村町浄水場は昭和49年に創設され、すでに50年を超過している。そのため施設の老朽化が顕著であるばかりでなく、耐震化や浸水対策も必要になっており、災害に強い施設と

して新たに整備する必要が出てきている。しかし、浄水場の更新整備においては、巨額の費用や技術的人材の確保が不可欠である。そのため、民間事業者によるコスト削減、維持管理のための技術者の確保が期待できる官民連携（PPP/PFI）手法が模索されている。
水道事業は極めて公共性が高く、水の安定供給や水質の維持、水道料金の設定等は、厳格に管理されなければならない。そのため、営利を目的とする民間事業者の参入には慎重な対応が求められる。国は地方公共団体が水道事業を管理しつつ、水道施設に関する公共施設等の運営権を民間事業者を設定できる仕組みを導入しようとしており、玉村町においても、民間事業者の参入に向けた調査研究を行っている。

町民に一番いい形での水道供給を要望

視察の点 上下水道課から、玉村町の上水道施設管理・更新一体事業PPP/PFI導入可能性調査、事業目的や民間活用を含む連携形態の比較検討、市場調査や事業スケジュールの検討及び実施に向けた課題と解決策の整理などの説明を受けた。
委員からは、「発注支援業務委託の果たす割合が大きいので業者選定を慎重に行ってほしい」「施設管理・更新一体事業は、要求水準内容を綿密に検討した上で発注してほしい」「企業経営に係る事項については、大変重要であるため、これまでおとり行政主導で行っていくことが必要である」などの意見があった。
当委員会としては、行政が水道事業をしっかりと運営しながら、町民に一番いい形での水道供給ができるように進めていくことを要望する。

総務
経済
常任委員会

生活する上で大切な水道
町は民間事業者の参入に向けた調査研究を実施

委員長 小林一幸 副委員長 松本幸喜 委員 笠原則孝・三友美恵子・高橋茂樹・新井賢次